



INVESTOR RELATIONS デリカレポート

DELICA REPORT

22 第22期 中間事業報告書
2024年4月1日 ▶ 2024年9月30日



デリカフーズホールディングス株式会社
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.

東証スタンダード 証券コード 3392

DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD. 2024-November TOP MESSAGE

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当期も事業報告をすることができましたのは、ひとえに株主の皆様のご理解ご支援の賜物と重ねて御礼申し上げます。

当中間連結会計期間（2024年4月1日～2024年9月30日）におけるわが国経済は、社会・経済活動が緩やかな回復傾向を続ける一方で、諸物価の高止まり、為替相場における円安進展、世界的な金融引き締め、長引く個人消費の低迷などの影響もあり、景気の先行きは依然として不透明な状況にあります。

このような中、当社は2024年5月に「第五次中期経営計画～keep on trying 2027～」を発表し、「各種ポートフォリオの変革」「青果物サプライチェーンの構造変革」「研究部門・開発部門への投資拡大」の基本方針のもと、具体的な施策展開を推進しております。

売上面では、外食産業における売上回復基調や省力化ニーズの高まりを捉えることで、引き続き着実に売上を伸ばしました。青果物流通事業を担うデリカフーズ(株)において、継続的に販売チャネルの最適化を図りながら、顧客ニーズへの積極的な対応を進めたほか、楽彩(株)を中心にBtoC事業の拡充も押し進めました。また、物流子会社エフエスロジスティックス(株)も、物流業界の「2024年問題」をチャンスと捉え、新規開拓によるグループ外売上への拡大に努めた結果、当中間連結会計期間における売上高は、中間連結会計期間としては過去最高の28,056百万円（前年同期比10.7%増）となりました。

損益面では、従業員の賃金アップや処遇見直しをはじめ、商品開発や研究開発への投資等に伴う経費増が先行的に発生するとともに、大阪FSセンターの立ち上げにかかる一過性の諸経費増があったこと、長雨や猛暑等の影響で各種野菜の生育不良・品質不良が発生し、輸入商材を含め仕入価格が急騰したことなどが減益要因となりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の営業損失は111百万円（前年同期は329百万円の営業利益）、経常損失は73百万円（前年同期は379百万円の経常利益）、親会社株主に帰属する中間純損失は66百万円（前年同期は320百万円の親会社株主に帰属する中間純利益）となりました。

当社としては、現場オペレーションの効率化に加え、お取引先様への丁寧な説明を実施した上での売価改善など、収益体質の強化を図ります。また、未来に向けた収益源の獲得に努めるとともに、戦略投資の一部前倒しなど企業価値の向上に向けた取り組みを加速してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きのご指導ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長

大崎 豊保



業績の概況

過去最高の売上高を計上。
収益体質の強化と効率化で
将来への財源を獲得する。

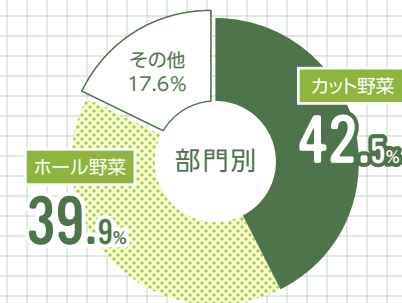
当中間連結会計期間

売上高	28,056百万円 (前年同期比10.7%増)
営業損失(△)	△111百万円
経常損失(△)	△73百万円
親会社株主に帰属する 中間純損失(△)	△66百万円
1株当たり 中間純損失(△)	△4.07円

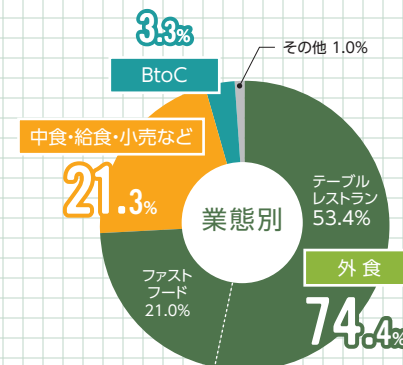
取締役のご紹介

取締役	取締役	取締役	社外取締役	社外取締役	取締役会長
					
こばやし けんじ 小林 憲司 デリカフーズ株式会社 代表取締役社長 兼任	なかやま こんの 仲山 紺之	いちの まりこ 市野 真理子 デザイナーフーズ株式会社 代表取締役社長 兼任	おざき ひろゆき 尾崎 弘之	しばた みすず 柴田 美鈴	たちもと いさたけ 館本 勲次

販売構成比



加工していない野菜そのものをホール野菜、お客様のご要望に合わせて加工されたものをカット野菜といいます。その他にはBtoC事業の主力商品であるミールキットなどが含まれております。



外食・中食と大きく分けて2つの業態があり、コロナ禍前は全体の8割以上が外食業界に向けた売上でしたが、ポートフォリオの変革によって現在は7割程となっております。

大解剖!

大阪FSセンター

2024年4月、新たな拠点となる大阪FSセンターが竣工し、業務を開始しました。
今回の特集では、これまで培ってきた技術やノウハウのもとにつくられた
大阪FSセンターの機能・設備を、業務の流れに合わせてご紹介します。

デリカフーズ㈱大阪FSセンター

業務開始日: 2024年 4月 8日 (月)
場所: 大阪府茨木市南目垣
延床面積: 5,645㎡

太陽光パネル

環境負荷軽減のため、センターの屋上
には発電能力150kw/hとなる面積
700㎡分のパネルを設置しました。

移動ラック

可動式ラックを庫内に設置
し、約120枚のパレットが
収納可能な原料保管ス
ペースを確保しました。

カラーソーター

野菜に付着する異物の選別工
程を、可視光カメラと近赤外線カメラ
で行う最新設備を導入しました。目視
では見つけにくい小さな虫や、レタスと色
が似ている虫の除去率の向上を図ります。

加熱工場

サラダ
盛り付け

真空加熱野菜・カップサラダライン

自動パッキング

オートソーター

多品種の包装に対応でき
る装置を導入し、ホール野
菜の袋詰め作業を自動化
しています。作業の効率化がで
きるに加え、店舗での開封も従
来に比べて容易になっています。

コンベアに商品を載せていっただけで、数十
店舗分の同時仕分けが可能な大型装置で
す。機械化することで、人的ミスを削減
し、人手を検品作業など他の作業に集中
させることができます。

出荷 センター

廃棄物自動搬送

カット工場から発生し
た野菜くずは同フロアで
粉碎され、配管を通して
1階の堆肥化装置まで自動
で運ばれます。動線を短縮
し、ムダな移動を削減します。

脱水作業軽労化

製造ラインの脱水工
程を半自動化し、人
による原料の持ち上げ
作業を減らします。作
業スピードも上がり、
省力化と生産性向上
に貢献します。

TOP INTERVIEW



デリカフーズ初の省力化ラインが
品質向上と収益に寄与
事業所長 澤江 祐二



社内外に快適な環境を、
社員が一つになる事業所を目指す
副事業所長 堀家 将志

グループ全社員が総力を挙げて取り組み、無事に立ち上げが完了しました。当センターでは、関西エリア初となる葉菜の自動化ラインや、初導入の半自動化脱水ラインを設置しています。敷地が広がったことに加え、ラインごとの進捗が分かりやすくなり、製品の品質や作業効率も格段に向上しました。今後は、食品安全を最優先にFSSC22000を取得し、強みを活かした収益性の高い事業所を目指します。また、社員一人ひとりが意見を発信できる職場づくりなど、日々の運営に努めてまいります。

旧事業所では2か所に分かれていた出荷センターが、当センターに機能集約されたことで作業が大幅に簡素化されました。さらにオートソーターの導入や入庫バースの増設で、作業の効率化・ドライバーの待機時間減少など、社内外でメリットが生まれています。また、事務所も開放的で明るくなり、快適な環境で業務ができるようになりました。今後は最新鋭の設備を活用しつつ、全国一お客様が満足できる事業所を目指します。そして、社員同士の和をもって全員が成長できる場所をつくりたいと考えております。

製造工場

全国FS化 完了!

大阪FSセンター竣工により、主要都市部へのFS拠点設置が完了し、
「全国をつなぐ独自の青果物流通インフラ」が確立されました。
FSセンターとは一体どんな工場なのか、その特徴や強みをご紹介します。

ついに「FSセンター全国展開」が完了。収益性の向上が新たなステップに

デリカフーズが創業した45年前、カット野菜の製造は常温での作業が一般的でしたが、当社は野菜の鮮度保持には温度管理が重要と考え、チルド帯での製造・配送を可能とする体制づくりにいち早く取り組んできました。2010年6月には当社初のFSセンター「東京FSセンター（東京都足立区）」を竣工。青果物の鮮度を保つことで、より安全でおいしい商品をお客様へお届けできるように、長年のノウハウを詰め込んだ当社独自の青果物流通インフラを構築してまいりました。今後は、完成した全国のFSセンターを有効活用し、機械化による省力化・省人化を図ることに加え、従業員の働き方改革も推進してまいります。



と23で...「FSセンター」ってナニモノ?

FSは、フレッシュ（Fresh）＆スピーディー（Speedy）の略。FSセンターとは、新鮮野菜をそのまま、早くお客様にお届けするためのデリカフーズ独自工場のことです。入荷から加工、配送まで、すべてのプロセスを、野菜の鮮度保持と菌数を増やさなため5℃帯のコールドチェーン対応をしています。全国で同一品質・同一規格の商品を出荷でき、真空加熱野菜やミールキットなどさまざまな商品の製造も可能なので、お客様の利便性向上にもつながります。また、ISO22000やFSSC22000といった国際認証の取得も積極的に行い、食の安全性が重視される今、当社の大きな強みになっています。

Fresh&Speedy

「Fresh&Speedy」をキャッチフレーズに、野菜の仕入から加工・物流までワンストップで対応しています。

コールドチェーン

工場に野菜を入荷して、商品としてお客様にお届けするまで、鮮度を保つためすべての作業が5℃帯設定の現場内で行われています。

大型貯蔵庫

青果物に合わせた温度で保管することで、従来よりも鮮度を長く保ち、コスト削減や安定供給にも効果を発揮します。

オートメーションピッキング

コンベアに載せるだけで、機械が数十店舗の商品を自動で仕分けします。大型外食チェーンへの対応も可能な装置です。

真空加熱野菜

ホール野菜・カット野菜以外にも利便性の高い商品を開発・製造しています。

野菜を無駄にしない

野菜残渣の堆肥化や、皮や根を利用した新商品開発など、循環型の事業活動を目指しています。

FSL エフエスロジスティックス株式会社

2014年に誕生した物流会社のエフエスロジスティックスは、今年で設立10周年を迎えました。
これまでの出来事を、いくつかのキーワードからご紹介いたします。

企業規模拡大

東京で事業を開始し、2017年に愛知、2018年に神奈川・大阪、2020年に福岡・西東京と、全国に営業所を拡大してきました。また、将来的な物流難を見据えて従業員数・車両台数の増強に取り組み、事業基盤を強化。創業当時と比較すると、従業員数は約14倍、車両台数は約26倍となっています（2024年3月時点）。



▼ 営業所開設年表

- 2015 — 事業開始(東京都足立区)
- 2017 — 名古屋営業所開設
- 2018 — 神奈川営業所開設
大阪営業所開設
- 2020 — 福岡営業所開設
西東京営業所開設

▼ 従業員数・車両台数推移



安全のために

全国の営業所でGマーク認定の取得を推進しています（3営業所取得済、2営業所12月取得予定）。Gマーク制度とは、公益社団法人全日本トラック協会が事業者の交通安全対策を評価し、基準を超えた事業所を「安全性優良事業所」に認定するものです。また、ドライバーの点呼をシステム導入で一括管理することで、営業所ごとのばらつきや漏れを防ぎ、安全安心な運行管理を実現しています。





環境配慮



東京都トラック協会の「グリーン・エコプロジェクト」に参加し、継続的なエコドライブ活動を推進しています。例えば、各ドライバーが給油量や走行距離、車両の燃費を走行管理表に記入することで、エコドライブへの意識向上につなげています。また、新車購入の際は低燃費車両を導入し、CO₂排出量を削減しています。

HOT NEWS ロイヤルグループの取り組みと連携

ロイヤルホールディングス株式会社が展開する「ロイヤルホスト」では、店舗から回収したメニューブックを紙原料として再資源化しています。当社はこのメニューブックの回収・配送業務を担い、事業の強みを活かした社会課題の解決と、企業価値の向上を図ります。

働きやすい職場づくり

従業員が健康で長く働けるよう、デリカフーズホールディングスの保健師1名を専属で配置し、健康相談や指導、環境改善を行っています。2023年には、職場環境改善に向けた取り組みを第三者機関が評価する「運転者職場環境良好度認証制度（働きやすい職場認証制度）」で2つ星を取得しました。

物流は社会のインフラ 荷物だけでなく心を届ける

代表取締役社長 吉川 直樹



皆様のおかげで10周年を迎えることができました。設立時から、ドライバーという職業が報われない状況を打破しようと奔走し、グループの中でルート便以外にも幹線便やあいのり便など、様々な挑戦をしてきました。私は物流業が好きで誇りをもっています。「この会社でよかった」と言ってもらえる会社にすべく、今後も社員一丸となり、お客様や従業員とその家族のために邁進してまいります。

「2024年問題」をチャンスに 販路拡大を狙っていく

取締役副社長 仲山 紺之



「2024年問題」としてドライバーの残業規制による物流難が取りざたされる中、当社はグループの物流を担うため車両と人員の充実を図り、安全運行管理と配送品質の強化を推し進めてまいりました。今を販路拡大の契機と捉え、全国6拠点の物流網を活かして、グループに収益面でもより一層貢献できる物流会社に進化させるべく、積極果敢にTRYしてまいりたいと思います。

DELICA NEWS&TOPICS

デリカフーズグループの旬な情報をお届けします

EVENT

「日経IR・個人投資家フェア2024」に出展

個人投資家との コミュニケーションを推進

2024年8月23・24日に、東京ビッグサイトで開催された「日経IR・個人投資家フェア2024」に出展いたしました。大規模な個人投資家向けイベントとして約4年ぶりの出展で、23日には代表取締役社長の大嶋が、100名を超えるご来場のお客様に当社グループの紹介をしました。ブースでのミニセミナーにも多くの方にお立ち寄りいただき、当社の魅力をお伝えすると同時に、率直な意見交換ができる良い機会となりました。



EVENT

デリカフーズグループ
合同入社式を開催

41名の新たな仲間とともに 全社でMVVの実現を目指す

2024年4月1日に、デリカフーズグループ合同入社式を開催いたしました。今年度はグループ総勢41名の新卒社員が入社し、新たに全国へ配属されています。また2024年度より、入社後3年間で行う合宿研修のカリキュラムを刷新し、従来以上に充実した新人研修が行われています。

これからも、新たな仲間とともに当社のミッション・ビジョン・バリューの実現のため、社員一同で力を合わせて歩んでまいります。



EVENT

「ジョブキャンプ2024」
に参加

未来を担う都立高校生に 「働くこと」への興味・関心を

東京都教育委員会の事業である「都立高校生のための職場体験・ジョブキャンプ2024」の体験企業として2024年7月23・24日に都立高校生9名の参加を受け入れました。当社の仕事内容の説明から、作業体験・手洗いの仕方・ミールキット試食会など、会社で働くイメージを持てるように企画し、学生の皆さんが「働くこと」について考える有意義な場となりました。



DELICA FOODS HOLDINGS

| デリカフーズグループ会社紹介

デリカフーズグループは野菜の価値を追求し、未来に向けた「持続可能な農業」と「食を通じた健康増進」を実現する企業です。



デリカフーズ

全国から調達した野菜を加工、鮮度を保って国内約30,000店舗にお届け。高いカット技術・パッケージ技術を持つ加工工場では、食品安全に細心の注意を払っています。



エフエス ロジスティクス

グループのコールドチェーンを実現するため、自社便で日々新鮮な食材をお届けします。また、拠点を結ぶ幹線便や共同配送など、全国に広がるチルド配送網を活かした物流サービスを提供します。



デザイナーフーズ

「メディカル青果物研究所」による青果物の分析・研究開発や、健康に寄与するメニュー・食べ方の考案、食のセミナー・コンサルティングなどを通して青果物の価値向上へ貢献します。



楽彩

「楽しく」「楽しく」「食卓を彩る」をコンセプトに、ECサイト事業やミールキット販売事業を担っています。グループで開発から製造まで行っている野菜たっぷりのミールキットで、日々の食事を彩ります。

決算レポート (第22期 中間事業報告 要旨)

中間連結財務諸表と当中間決算のポイントについてご説明します。

中間連結貸借対照表(要旨)

単位：千円

科 目	第21期 前連結会計年度 (2024年3月31日)	第22期 当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
■資産の部		
流動資産 ①	12,510,214	11,695,765
固定資産	16,338,173	16,005,969
資産合計	28,848,387	27,701,735
■負債の部		
流動負債	9,746,488	9,674,911
固定負債	10,351,040	9,561,648
負債合計	20,097,528	19,236,559
■純資産の部		
株主資本	8,432,790	8,196,467
その他の包括利益累計額	318,068	268,708
純資産合計 ②	8,750,858	8,465,175
負債純資産合計	28,848,387	27,701,735

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：千円

科 目	第21期 前中間連結会計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日	第22期 当中間連結会計期間 自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	435,951	2,597,836
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,818,474	△524,690
財務活動によるキャッシュ・フロー	△134,473	△1,056,667
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,516,996	1,016,478
現金及び現金同等物の期首残高	5,218,554	3,966,293
現金及び現金同等物の中間期末残高	3,701,557	4,982,771

決算数値 POINT

① 流動資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて6.5%減少し、11,695百万円となりました。これは、主として現金及び預金が1,216百万円増加し、「その他」が1,303百万円、売掛金が756百万円減少したことなどによります。

中間連結損益計算書(要旨)

単位：千円

科 目	第21期 前中間連結会計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日	第22期 当中間連結会計期間 自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日
売上高	25,344,129	28,056,045
売上原価	19,180,205	21,475,363
売上総利益	6,163,923	6,580,682
販売費及び一般管理費	5,834,419	6,692,281
営業利益又は営業損失(△)	329,503	△111,599
営業外収益	71,272	89,525
営業外費用	21,087	51,789
経常利益又は経常損失(△)	379,688	△73,863
特別利益	5,761	1,999
特別損失	5,223	12,000
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失(△)	380,225	△83,863
法人税等	59,937	△17,487
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失(△)	320,288	△66,375

	第21期 前中間連結会計期間 自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日	第22期 当中間連結会計期間 自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日
1株当たり中間純利益又は1株当たり中間純損失(△)(円)	19.68	△4.07
1株当たり純資産(円)	493.52	518.59
自己資本(百万円)	8,035	8,465
自己資本比率(%)	31.5	30.6

② 純資産合計

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3.3%減少し、8,465百万円となりました。これは、主として利益剰余金が261百万円減少したことなどによります。

会社概要

2024年9月30日現在

商号	デリカフーズホールディングス株式会社		
英文社名	DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.		
設立	平成 15 年 4 月 1 日		
創業	昭和 54 年 10 月 6 日		
所在地	〒121-0073 東京都足立区六町四丁目 12 番 12 号		
資本金	1,772,363 千円		
従業員数（連結）	786 名（他、平均臨時雇用者数 2,283 名）		

役員

代表取締役社長	大崎 善保	社外取締役	尾崎 弘之
取締役会長	館本 勲武	社外取締役	柴田 美鈴
取締役	小林 憲司	常勤監査役	田井中 俊行
取締役	仲山 紺之	社外監査役	森田 雅也
取締役	市野 真理子	社外監査役	三島 宏太

会計監査人 南青山監査法人

株式状況

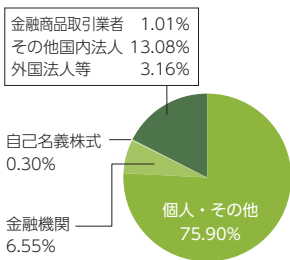
2024年9月30日現在

発行済株式総数 16,372,000 株
株主総数 13,106 名

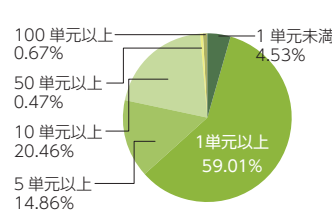
大株主

館本 篤志	2,038,900 株
エア・ウォーター(株)	1,719,400 株
館本 勲武	967,100 株
(株)日本カस्टディ銀行 (信託口)	623,800 株
大崎 善保	363,411 株
野村 五郎	189,800 株
日本マスタートラスト 信託銀行(株)(信託口)	186,800 株
デリカフーズグループ 従業員持株会	184,500 株
丹羽 真清	165,500 株
(株)オリエンタル	154,400 株

【所有者別分布状況】(株式会社)



【所有株数別分布状況】(株主数)



株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日 3月31日
中間配当金受領株主確定日 9月30日
定時株主総会 毎年6月
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町 1-1
TEL.0120-232-711（通話料無料）
郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
株式会社東京証券取引所（証券コード 3392）
電子公告により行う
公告掲載 URL <https://www.delica.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機構（証券会社等）で承ることになっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

 **デリカフーズホールディングス株式会社**
DELICA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
〒121-0073 東京都足立区六町四丁目12番12号



IR最新情報は
ホームページを
ご覧ください。

デリカフーズ  <https://www.delica.co.jp/>
【お問い合わせ】 TEL 03(3858) 1037 FAX 03(5851) 1056



本事業報告書は、地球環境への負担を低減させるために、FSC®認証紙と、UVエコインキを使用しています。
見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。